

平成30年度 第33回卒業証書授与式 校長式辞（一部抜粋）

卒業生諸君、卒業おめでとう。諸君は、総合学科である本校で、「自分は何ものであり、何のために、何に向かって、何を学ぶべきか。」という問いに、じっくりと考え、これからの生きる道を探してきました。

本校最大のイベント学校祭では、「上下一心（しょうかいっしん）」、ブロック長を中心とする3年生が、リーダーシップを発揮し、1・2年生と力を合わせて、素晴らしい作品や演技を作り上げてくれました。

部活動では、最後の最後まで、あきらめずに一生懸命プレーする姿を見せてくれました。

また、地域のイベントやボランティア活動に積極的に参加し、子どもたちや高齢者の方々から、「笑顔」と「ありがとう」という言葉をプレゼントされ、「思いやりの心」の大切さを学びました。

三年間の高校生活の中で、楽しかったこと、つらかったこと、胸が熱くなったこと。一人一人にたくさんの経験があったと思います。昨日の同窓会入会式で総合学科1回生の方が、「瀬戸北総合高校は、感動の宝庫である」というお話をされました。高校時代の「感動」を宝物として、新たな人生の一步を踏み出してください。

今年の5月1日、「平成」から新しい元号となります。時代の節目を迎えるにあたり、私から次の言葉を卒業生に送ります。その言葉は、「**困難は乗り越えられる、強い覚悟と支えがあれば**」です。

プロサッカー選手、「キングカズ」こと三浦知良選手は、現在52歳、プロ34年目を迎えています。「選手であり続ける」ことにこだわり、ハードなトレーニングを自ら行っています。

カズは、Jリーグが開幕した1993年、所属していたヴェルディ川崎をJリーグ初代チャンピオンに導くエーススライカーとして活躍、最優秀選手賞を受賞しました。日本代表としてワールドカップ・アメリカ大会予選にも出場、最終予選最終戦のイラク戦ではロスタイムに同点にされ、ほぼ手中にしていた本大会出場をあと一步のところで逃した、いわゆる「ドーハの悲劇」を経験した選手です。また、1998年、日本代表が初出場を決めたフランスワールドカップでは、大会直前の合宿で代表を外され、本大会出場の夢が叶わず、以降、日本代表に選ばれることなく、念願のワールドカップ出場を果たすことはできませんでした。しかし、現在でも「現役」にこだわり、大好きなサッカーができる喜びを感じながら、公式戦90分フル出場できる準備を怠らない選手です。カズは最近のインタビューで「18歳でプロになった時からサッカーへの情熱は変わらない。逆に増しているんじゃないか。情熱が一番の原動力ですね。」と熱っぽく語っています。

これからの人生で、何にこだわり、どのように生きるかを決めるのは、ほかならぬ自分自身です。そして、自分の決めたことには責任が伴い、責任を果たすためには、困難な課題を乗り越える必要があるかもしれません。「私は、神様は乗り越えられない試練は与えない。自分に乗り越えられない壁はないと思っています。必ず戻ってきます。」これは、白血病を公表した水泳の池江璃花子選手のツイッターでのコメントです。

卒業生諸君と同じ高校3年生である池江選手、白血病を克服し、選手として復帰する覚悟を決めた強い言葉です。池江選手のこの覚悟に、多くの国民から励ましのメッセージがあり、骨髄バンクに登録しようとする人が増加しました。辛い思いをしている人に思いやりのある言葉をかけたり、手助けしようとする行動をとったりする「人の支え」があってこそ困難は乗り越えられます。

「**困難は乗り越えられる、強い覚悟と支えがあれば**」この言葉を卒業生諸君への餞（はなむけ）とします。